

中国人といえば、いつもウーロン茶やジャスミン茶を飲んでいるイメージがありますが、それはもう昔の話です。国民の飲み物としてお茶が不動の地位を保っていることに変わりはありませんが、近年では、都会の若者を中心にコーヒーを飲む人が増えてきています。現在、中国の都会では、様々なコーヒーショップが現れてきています。

大手チェーン店の進出

ビジネスエリアやショッピングモールの中で、よく見かけるのは世界中でも有名なチェーン店です。米スターバックスや英コスタ・コーヒーなどもずいぶん前から中国へ進出しています。現在、中国のスターバックス店舗は1,200軒に達しており、このうち上海に260軒、北京に150軒存在しています。また、ライバル店の英コスタ・コーヒーも2018年までには2,500店まで拡大する計画があります。



▲弊社近くの「スターバックスコーヒー」

ベーカリー&カフェ複合店が庶民の中で大人気

朝食をパン食というブームがきている都会では、パン屋さんもたくさん出店しています。中でも、ベーカリー&カフェという形の複合店が多くなってきました。台湾系のパン屋「85度C」は、2007年12月に上海で第1号店がオープンして以来、1年間で上海市内に30店舗展開し、着実に上海の人々を魅了しています。「85度C」ではアメリカンコーヒーが一杯8元(約130円)、チーズケーキが1個10元(約160円)に設定されており、豊富な品揃えと庶民的な価格(スターバックスなどの大手チェーン店の半額の価格帯)ということで庶民の間で大人気です。



▲弊社近くの「85度C」

高品質を求めて・・・現場焙煎喫茶店がブーム

大手チェーン店やコーヒーを扱うお店の数が急増していることにより、一般市民たちのコーヒーへの意識が高くなってきています。より高い品質のコーヒーを味わいたいというニーズが生まれはじめました。コーヒーが生活の中に溶け込み、本場の美味しいコーヒーを求める消費者が増えてきたのです。そこで、焙煎やパードリップでの抽出で、コーヒー本来の味を最大限に楽しむことができる「第3世代」と呼ばれる現場焙煎喫茶店の店舗数が増加しています。



▲弊社近くの「自家焙煎喫茶店」

コンビニカフェが爆発的に増加！コーヒー時代到来！

今まで中国一般市民は、カフェを利用する目的は「食事」「ネット」「勉強」「おしゃべり」4つのいずれかだったため、「ちょっとコーヒーでも飲みたいな」というコーヒーを目的としたケースが少なかった傾向にありました。

しかし、今一番注目されているのは、上海中心部のファミマやセブン店内にある新しく設けられたコーヒーコーナーです。庶民のコーヒーとも言えるコンビニカフェは、アメリカンコーヒーが10元～12元(約170円～200円)程度で、安くて便利のため、コーヒーが好きで仕事が忙しいサラリーマンたちに受け入れられています。



▲弊社近くの「ファミマコーヒーコーナー」

北京コーヒー業界協会の資料によりますと、中国のコーヒー消費量は毎年約15%のペースで増加しています。また、年間約1兆元のコーヒーの消費が期待できると試算されていますが、これまでの消費は年間700億元程度にとどまっているため、今後の市場拡大が見込まれています。コーヒーの魅力を伝えてくれるお店がもっと増えてくるといいですね。